

## 都市河川の水質汚濁の調査研究 (第1報)

## 唐の原川 について

福岡女子大人間環境 ○今林裕子

目的 近年の公共水域における水質汚濁は企業による汚染から生活排水の占める割合が大きくなっていると言われている。都市河川の水質の現状を把握しておくことは今後の生活排水処理対策や方法の対応を如何にするかなどを考えていく時重要であると考え今回は平成元年度全国でワースト5位に挙げられていた博多湾流入河川の唐の原川について水質に関する分析を試み、都市小河川の水質の実態について調査を行ない、そのデータについて検討、考察を行なった

調査方法 水質検査河川；唐の原川7ポイント 検査項目；TOC, MBAS, COD, pH, Cl, DO, 硬度、水温、検査項目の大部分はJISに従った。また、住宅密集地の中流域において1時間おきに採水を行ない通日変動を検査した。

結果と考察 1、TOC MBAS、水温は住宅密集地の中流域で高かった。2、TOCは夏期に低く、冬期に高い値を示した。3、TOC, COD, Cl間に正の相関があった。4、TOC、MBAS, CODについて家庭生活に伴うと推定される変動が認められた。5、MBASが淡水魚の基準値をはるかに超えた値であったのは下水道の未処理人口は15%であるが下水本管への未接続率が50%もあることと浄化槽も多く設置されていることが原因と推定された。